

奥出雲町で大規模 太陽光発電の可能性は

塔村俊介 議員

町長 山陰は日射量が少なく不可能



問 亀高小学校に太陽光パネルが設置され、稼働が始まっている。他の公施設での普及の考えを問う。

答 学校施設への太陽光発電は環境教育の一環としてやっていきたいと思っているが、11月から3月までは稼働効果が極めて悪く、コストと効果を検証して、取り組む課題である。

問 検証の結果、費用対効果でとんとならやるのか。赤字でもやるのか。

答 とんとならやるが、赤字であればやりたくない。

問 自然エネルギー協議会が設立され、大規模の太陽光発電所の建設地を全国で探している。休耕田畑を利用したいという趣旨からも、開パイの有効利用の考えはないか。

答 開パイでの建設は不可能と思っている。手を挙げている米子も松江も出雲も不可能。日射量が全然足りない。

問 太陽光発電に不向きで不可能な土地柄ならば、学校施設に太陽光発電施設を設置する必要はこれ以上ないのではないか。

答 学校施設には文科省の補助金もあり、他の施設とはチャンポンにした議論ではないと思っている。

問 次に、木質チップについて佐白温泉、また玉峰山荘に木質チップポイラーの導入が予定されている。木質バイオマス計画で想定されているチップ単価キロあたり7円に対し、今年度3月の流通価格は15〜19円と相当な開きがあり、プラス運送費もかかる。町内での製造の現況と見通しについて問う。

答 将来的には町内で木質チップを生産するシステムが必要だと思っているが、関係者のみなさまと協議を進めていきたい。

問 奥出雲町は現在でも屈指の水力発電のまちである。水資源を利用した小水力発電の考えは。

答 可能性の調査をしている。費用対コスト、財源に留意し、積極的な導入を図っていきたい。

問 昨年、奥出雲町は景観行政団体に指定された。今後計画が必要だと思いが、私有財産も絡み、町民参加型の景観計画の策定が不可欠である。執行部人事のように説明がないまま、決まったことだけが新聞報道され、町民が後から知り、他人事となってしまうことを危惧する。町長の考えを問う。

答 人事のこと、計画のことは別である。指摘のように住民参加型をできるだけ取り入れていきたい。

問 加工品や特産品販売を助ける意味でも開設されたインターネットの販売ショップ「奥出雲ショップ」の計画に対してこの10ヶ月の実績は。

答 昨年8月にオープンしてから今年5月までの10ヶ月間で、約120万円の売り上げがあり、粗利率は30%ぐらいである。

問 相当な金額を注ぎ込んで約30万しか利益が出なかったことは失敗と言わざるをえない。この取り組み自体は必要であり、大規模に展開するか、細かな商品を拾い上げる機能が必要だと私は思う。今後の展開についての考えを問う。

答 魅力的な商品の追加やクレジット機能の追加、コストの圧縮が必要と考えている。運営に関しては酒蔵交流館へ委託している。

問 交流館への委託料もコストである。「奥出雲ショップ」をもう一度立て直し、奥出雲の資源としていく考えはあるか。

答 「奥出雲ごっこ」の中の一つとして、当然ながら継続してやっていきたい。